問題解決の流れ（発見から評価・改善まで）

情報と情報技術を使って問題を解決するには、どのように進めればよいだろう

例（架空）：学校の図書室で、本があまり借りられていない

1 問題の発見

今の様子と、ありたい姿のずれに気づく

例

貸出の数が、去年より少ない（記録のデータ）

2 問題の明確化

原因を調べ、目標を決める

例

アンケートで理由を調べる
→「読みたい本が分からない」が多い
目標：1か月の貸出を2割ふやす

3 解決案の検討

情報を集め、いくつかの案を比べて選ぶ

例

A おすすめの紹介カード
B 校内サイトで新着を紹介
C 開館時間をのばす
→ 効果・費用・手間で比べる

4 実行

計画を立てて、実行する

例

AとBを1か月ためす
（だれが・いつ・何を）

5 評価・改善

結果を目標と比べ、ふり返って直す

例

貸出の数を比べる
→ 足りなければ案を見直す

ふり返りから、新しい問題を見つけて、くり返す

どの場面でも大切なこと

✔ 情報を可視化して比べる

表や図・グラフにすると、比べたり、組み合わせたりしやすい

✔ 方法で結果が変わる

選んだ方法によって、作業の効率や結果がちがうことがある

✔ ふり返りと評価

自分でふり返り、ほかの人にも評価してもらって改善する

✔ 発信して共有する

成果を発信・共有すると、情報が蓄積され、次の解決に生きる

※ 模式図。例と数値は架空。段階の分け方や名前は、教科書によってちがうことがある。